

ゴ

ルフをやらないので、同世代の男たちがゴルフ談義に花を咲かせていても中には入れないのだが、話の中身や表情口調などからさぞかしおもしろいのだろうなと思う。だがやってみたくも思わなかった。道具をそろえろるか、ゴルフ場を借りるとか。そもそも面倒だ。スキーをする気になれないのも同じ理由だ。好きな人は、そんなことを面倒に感じるのが理解できないに違いない。

ゴルフ保険を知ったときは、つくづくやらなくてよかったと思つた。ホールインワンを出す友人知人に振る舞わなければならないのだそうで、多額の出費に備えた保険商品があるという。なぜそんな慣習があるのかから理解できない。とても手に負えない面倒くささだ。

グラウンドゴルフが始まった。五人ずつのグループが編成され、リーダー格の老人が進行役になっていた。何も知らないで教えてほしい、と頭を下げたら、こここしていいねいに教えてくれた。各ホールの癖などにも精通していて、言われた通りに打てれば確かにうまくいった。このホールはああでこうで、と話を聞いていた近くを、別のグループが通り過ぎていった。「ほお、〇〇がべらべら講釈始めたで。」と聞き覚えのあるだみ声が聞こえた。少し前に傾いだ

がっちりした背中が見えた。ぼくの名を大声で読み、父を知っていると云った老人だった。幸いリーダーには聞こえていなかった。聞こえたところで、どうつてことない間柄なのかもしれないが。

誘われたら乗ってみる。自分の好きなことをする。教えられた退職後の心がけ。退職すればあれこれ失うのだから、せめて嫌なことはしないぐらいの意地は通してバランスを取りたい。ただ、好きか嫌いかは事前の予測があまりあてにならないから、とりあえずやってみようと思うのである。

グラウンドゴルフは、前半こそなかなかおもしろいと感じ、褒められていい気になったりしたが、だんだんと退屈を感じ始めた。終わってみたら、とても初心者らしいスコアで、あれこれ設けられた賞にもひっつかからず、全員配布のサララップをもらった。結果には満足だったが、ゴルフはやっぱり好きでもないしわかった。

グループみんなに気を配るじいさんとひたすら自分の記録を追うばあさん、口の悪いじいさんに誰がどう打とうとこここしているばあさん。それを端から見ているじいさんであるぼくは、人集まればどう切り取ってもこんな配剤になるもんだと何だかそれがとてもおもしろかった。



専業ババ奮闘記 (その2)125

木幡智恵美

冬 (6)

二月に入っても、県内の新型コロナ感染者数が百人に近い日が続いている。この冬は気温が低く、積雪量も多い予報だったのに、節分は荒れるどころか、陽気に誘われて歩き出したほどだ。気温が下がり、雪で屋根や道路が白くなったのは、立春を過ぎてから。

寛大も実歩も、歩くのは一歳を三、四か月過ぎてからで、言葉も二歳が近づくころから一気に出だした。宗矢も同様で、歩くのも言葉も遅かった。そして、二歳を過ぎた今、会うたびに色々な言葉が聞かれる。「しん写真」「おに」などが加わったほか、「かたい」「いたい」などの形容詞まで増えてきた。そして、近づいてはいけけないものに対しては、「おじよじよ」と言う。玉湯に行った日は雪が舞う寒い日だったので、外を見ては「ゆき」と言い、保育園で節分の行事に使ったのか、鬼の面をつけて、「おにだじよ」と私に向かってきた。寒いのでずっと家の中で過ごす。寛大は、ブロックには飽きないようで、戦闘機や機関銃のようなものを組み立てている。実歩はバズル。今は五百ピースに挑んでいる。

孫たちが我が家に来た日は晴れて、この時季にしては温かった。寛大と実歩が縄跳びをすると外に出たので、宗矢も追って出る。夫に、「ジジは出らん」と聞くと、「ジジは行かん」とのこと。それからしばらくの間、宗矢は「じじ、いかん」「じじ、いかん」を繰り返していた。前に見た猫を探して歩くが、なかなか出会えない。宗矢は何度も「にゃんは」と聞くので、「寒いけん、おうちかな」と答えると、「まむい(寒い)、おうち」「まむい、おうち」と唱えていた。宗矢とお母ちゃんが昼寝した後、寛大と実歩はまた外に出て縄跳び。汗をかき、薄着で跳ねている。冬の晴れ間は嬉しいものだ。

そして、バレンタインデー。ここ何年か、チョコバナナロールケーキを作っている。意外に失敗がないのだ。ロールにするスポンジは、書いてある時間より少し短めに焼くと、生地が柔らかいままでうまく巻ける。中に入れるチョコクリームは、溶かしたチョコクリームを生クリームの中に入れ、冷蔵庫で寝かせてから泡立てる。冷めたスポンジにチョコクリームを塗り、バナナを挟んで巻くと出来上がり。今年は、私の取り分はほんの少し。夕食後、夫と息子できれいに平らげてくれた。完食されるのは、いい気分だ。

30代フリーター やあ、ジイさん。11月19日は「世界トイレの日」だった。日本ユニセフ協会のウェブサイトにによると、世界の全人口80億人のうち20億人がトイレを使えない状態にある。生きていくうえで最も切実なことのひとつである排泄の問題がなぜかあとまわしにされている現実がある。

年金生活者 排泄が性とほとんど一体とっていいほど密接な関係にあり、タブー視されがちだということが要因のひとつと考えられる。フロイトは糞便の排出が肛門に性的な快感を呼び起こすと考え、それが成長の過程で顕著になる時期を肛門期（1〜3歳）と名づけた。

この快感は排便が母胎の楽園への帰還を代替することに由来すると私は考えている。肛門期の前の段階の口唇期（0〜1歳）では母の乳房を吸うことが母胎の楽園への帰還を代替する。口も肛門も身体の穴である点で共通しており、それぞれの穴は楽園への通路の代わりとなっている。

ちを恥ずかしがらないようにする啓発活動や、災害の避難所や公園のトイレを掃除する活動を続けているそうだ。年金 フーコーの言う「生権力」の、より洗練された姿をそこに見ることができる。

幼児が親から受ける排泄のしつけは、人間が生まれて初めて経験する掟との遭遇、言い換えれば権力との遭遇だ。肛門に性的な快感を与えてくれる糞便を汚らわしいもの、恥ずかしいものと教え込まれ、性をタブー視し、恥ずかしいものと感じるようになる芽が育っていく。

幼児に対する排泄の訓練は、フーコーの言う生権力の発現に該当する。近代に特有の生権力にはふた通りのあらわれ方がある。ひとつは軍隊や工場、学校などで行われる規律訓練であり、もうひとつは統計にもとづいて人口などをコントロールするやり方だ。排泄のトレーニングは前者に該当する。

生権力は、逆らう者を殺す近代以前

30代 ふたつの穴はだいぶ違う。年金 口唇期の乳児は自分の身体と母の身体の区別がつかない。自分の口の入り口でもあり、それが母胎の楽園への入り口とみなされる。母の乳房は乳児自身のものでもあり、それが自分の口と母の口を通って楽園を目指す。この時期は授乳中以外でもおしゃぶりをくわえており、楽園への帰還の代替行為はほとんど常時続いている。

肛門期はその行為が常時ではなくなり、便意を催したときだけに限られる。おそらくそのぶん快感は濃縮されるはずだ。この段階では母と自分が区別されるようになる。だが、まだ未分化なところが残っていて、排出された糞便は自らの身体から出たものでありながら、母胎の楽園の代替物とみなされる。乳幼児は排出時に自分自身が肛門を通過しているような感覚を持つに違いない。

30代 ジイさんの排便は順調かい。年金 排便が順調かどうか、私は人並み以上に気にしている気がする。これ

の権力と違って、人を生かす権力だが、逆らう者には罰を与える。トイレの訓練でも親は粗相した子を罰する。こうしてトイレは汚く怖い場所として記憶される。

30代 先進国のトイレは清潔になり、快適さを競うようになった。年金 資本主義が消費中心のシステムに変容し、トイレのイメージを一変させた。

工場、学校、軍隊での規律訓練は、生権力が経済的には第2次産業中心の

は私の強迫性障害の傾向と関係があるに違いない。

強迫性障害の症状の代表的なものとして、戸締まりをしたか気になって何度も引き返したりする「確認行為」と、手洗いを繰り返したりする「不潔恐怖」がある。どちらも幼児期の過剰な排泄の訓練に由来する。排泄はトイレ以外でするという掟を突きつけられ、それを破ると叱られる日々を送れば、長じてからも自分の行動が掟に反していないか絶えず「確認」しないではいられない心的傾向が形成される。糞便を汚いものとして遠ざけるようにやかましく教え込まれば、汚れを恐ろしいものと思う傾向が培われる。私にもいくぶんか思いあたるところがある。

30代 NPO法人「日本トイレ研究所」代表理事の肩書を持つ加藤篤という男性が朝日新聞の別刷り「be」（11月5日）で紹介されていた。排泄とトイレを「愛のある時間と空間」に変えるのを使命とし、子供たちがうん

産業資本主義の段階、政治的には国民皆兵の国民国家の段階において成立した権力であることを示している。現在の先進諸国はすでにその段階を過ぎ、ポスト産業資本主義の段階にある。この段階では消費がGDPの最大部分を占める。

それまで主として生産の現場にいる労働者をターゲットにしていた生権力は、現場を離れた労働者、すなわち消費者をおもな対象とするようになった。現在の消費者は消費支出の過半を選択的消費に充てることができるとして生活水準が上がっている。あからさまな罰よりも、好みや快適さによって動かされる。

それが人間の切実な営みである排泄にあらわれている。きれいなトイレを用意し、快適な排泄を手助けすることが生権力の目標となる。それによって、社会の秩序を維持し、公衆衛生を向上させる。それは進化した生権力であり、快適な権力と呼ぶことができる。

ニュース日記 857
中村 礼治

世界トイレの日